

令和6年度 松本市立梓川小学校グランドデザイン

学校教育目標

梓川の大地に根ざして 豊かに自立する子どもの育成

あずさっ子 かしこく なかよく たくましく

「梓川」の恵まれた大地（自然・環境）、歴史や文化、人と深く関わる中で、豊かな体験を通し、自ら課題を持ち追究していく「生きる力」を育む。

【具体目標】

よく考え、進んで学ぶ子どもに

思いやりがあり、助け合う子どもに

体をきたえ、たくましい子どもに

【児童の目標】

かしこく

なかよく

たくましく

大地に立つ教育

ひとりひとりの子どもの発達段階をふまえた実態や願い、地域の実態や願い
教育・文化・産業を尊重し、生涯学習を樹立する取り組みが盛んな「ふるさと梓川」
南北 200m 東西 250m、5万㎡に及ぶ自然豊かで広大な校地、開校 52 年目

《指導の重点》

自分から行動できる「あずさっ子」

1 自分を高め、大切に子ども

- ・課題解決的な学習を展開し、学びを深めることができる「対話」や探究的な学習のあり方を追究する。
- ・「学習問題」「見通し」「まとめ」などの掲示カードを活用し、意欲を引き出す授業の構造化を図る。
- ・教材や題材にのめり込み、やりがいを感じる場づくりや体験活動を大切に学習展開の工夫を進める。
- ・児童会や外部講師と連携し、歯みがき・運動遊び・食育（食事）など健康の大切さに気づける支援をしていく。

「進んで学び体をきたえよう」

かしこく

なかよく

たくましく

進んで学習や読書をしよう

友だちの意見をよく聞き、よく考え話し合おう

運動遊びに取り組み、粘り強くやり遂げよう

2 人とのつながりを大切に子ども

- ・職員自ら明るいあいさつを交わして手本を示す。よい姿はその場で褒め、認めていく。
- ・児童会活動としてもあいさつ週間を行い、子どもたちのあいさつへの意識を高めていく。
- ・子どもの理解につながる声かけや接し方に努め、子どもとよい関係を築く。
- ・子どもと共に活動し、子ども同士の関係づくりを推進し、居心地のよい教室や場づくりを進める。

「進んであいさつや元気な返事をしよう」

かしこく

なかよく

たくましく

あいさつや返事の大切さをみんなで考えよう

学校や家庭、地域で自分から気持ちのよいあいさつや相手を受け入れた返事をしよう

自分から進んであいさつしよう

3 自ら気づいて働ける子ども

- ・発達段階に応じて清掃の手順を示し、自分たちで進められるようにする。
- ・職員も一緒に学校全体で身支度を整えて時間を守って清掃に取りかかり、みんなで協力しながら一生懸命働き、すみずみまできれいにする。
- ・清掃のよい姿をその場でほめて認め、そのよさを全校に伝えるなどして広めていく。

「だまりそうじ・みつけそうじをしよう」

かしこく

なかよく

たくましく

だまりそうじ
だまって気働きをしてそうじをしよう

そうじの音をひびかせよう
真剣に力を合わせて働こう

見つけそうじ
よごれているところを見つけ、すみずみまできれいにしよう

家庭・地域と協働できる学校に

- 学校・家庭・地域で子どもたちに対する願いを共有し合い、積極的に地域に関わり、役割分担を明確にしていく。（地域の素材・人材の活用推進）
- 学校評価結果を分析し、児童の伸びている点と改善すべき点を明らかにし、学校指導方針に生かしていく。

子どもに寄り添い、高め合える教師集団に

- 児童理解を基に全職員同一歩調で指導・支援を進める。
- 子どもの言葉や気持ちを受け止め、しなやかに対応する。
- 登校下校指導を計画的に行い、子どもたちの安全に気を配る。
- 自己課題を意識した授業改善に取り組み、日常の授業力向上のための研修を積み重ねる。（本年度は、「総合的な学習の時間」を軸に探究的学びの研修を全職員で進める）
- 全国学力・学習状況調査、CRT等を分析し、課題を把握し、基礎基本の定着や課題となる学力が向上するための指導を全職員で行う。

すべての子どもが学びやすい授業のユニバーサルデザイン化を進め、仲間を大切にできる学校に

- 安心できる教室環境を整え、指示や板書をわかりやすくした日々の授業改善を進める。
- 道徳や人権教育を大切に、お互いの人格を尊重し合える心情や学級を育てる。
- 多様性に沿った支援と学びの場の検討や合理的配慮に努める。【松本市インクルーシブセンターの活用】

